

台風・豪雨・土砂災害

大雨や台風によって、洪水や土砂災害などが引き起こされることがあります。危険性、前兆現象などを知っておきましょう。

警報・注意報の内容

知る

注意報	警報	特別警報								
<p>災害のおそれがあります。最新情報に注意し、災害に備えて早めに準備を。</p> 	<p>重大な災害のおそれがあります。役場からの避難情報に注意し、必要に応じ避難を。</p> 	<p>重大な災害の起こるおそれ著しく高まっている場合に発表されます。ただちに避難情報に従うなど、適切な行動をとってください。 特別警報発表時は消防サイレンを吹鳴します</p> <table border="1"> <tr> <th>サイレン吹鳴パターン</th> <th>吹鳴時間</th> <th>停止時間</th> <th>繰り返し</th> </tr> <tr> <td></td> <td>60秒</td> <td>数十秒</td> <td>2回</td> </tr> </table>	サイレン吹鳴パターン	吹鳴時間	停止時間	繰り返し		60秒	数十秒	2回
サイレン吹鳴パターン	吹鳴時間	停止時間	繰り返し							
	60秒	数十秒	2回							

危険度大

風水害の危険

知る

大雨

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10~20mm	1時間に20~30mm	1時間に30~50mm	1時間に50~80mm	1時間に80mm以上
長く続くときは注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起りやすく、多くの災害が発生する。	雨による大規模災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

危険度大

強風

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10~15 m/秒	15~20 m/秒	20~25 m/秒	25~30 m/秒
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	転倒する人も出る。看板やトタン板が外れ始める。	つかまっていけないと立ってられない。飛来物で負傷するおそれがある。	立ってられない。樹木が倒れる。

危険度大

土砂災害の特徴

- 土石流
山腹や川底の石、土砂が雨によって一気に押し流される。
- がけ崩れ
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる。
- 地すべり
斜面の一部や全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと移動する。

こんなときどうしたらいいの？

- Q. 土砂災害の前兆現象に気づいた時はどうしたらいいの？
A. 直ちに周りの人と安全な場所に避難するとともに、役場に連絡してください。

防災 Q&A

雨・風の対策

- 点検・補強 
- 側溝の掃除 
- 室内に収納 
- ガラスの飛散防止 

備える

周囲の変化に注意

備える

天候の変化

真っ黒い雲の接近、雷の音や光、冷風などがサイン。



状況の変化(土砂災害の前兆)

● 土石流の前兆
山鳴りがする。川が濁り流木が混ざる。川の水位が下がる。



● がけ崩れの前兆
がけ面から小石が落ち、裂け目ができる。がけから水がわき出る。

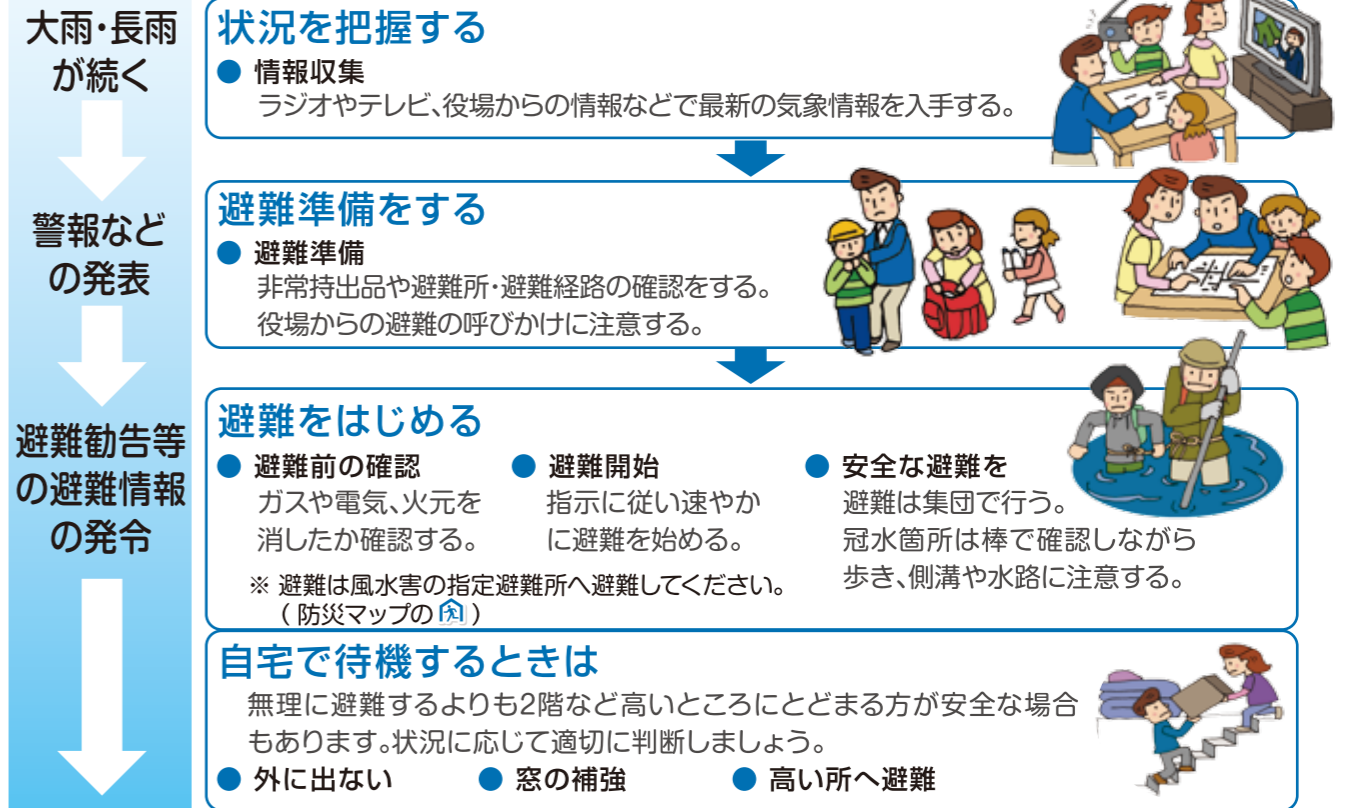


● 地すべりの前兆
地面にひび割れや陥没ができる。樹木が傾く。



風水害発生の流れ

身を守る



訓子府町の水位情報

危険水位などを把握し、避難時の想定をしておきましょう。

常呂川(観測所: 置戸)		訓子府川(観測所: 豊地)	
▽ 氾濫危険水位	213.20m (河床が54.23m)	▽ 氾濫危険水位	93.96m (河床が51.96m)
▽ 避難判断水位	213.00m (河床が54.03m)	▽ 避難判断水位	93.40m (河床が51.40m)
▽ 氾濫注意水位	212.90m (河床が53.93m)	▽ 氾濫注意水位	93.08m (河床が51.08m)
▽ 水防団待機水位	212.60m (河床が53.63m)	▽ 水防団待機水位	92.68m (河床が50.68m)
▽ 普段の水位		▽ 普段の水位	
▽ 河床高	208.97m	▽ 河床高	92.00m

避難判断水位一避難準備・高齢者避難開始の発令判断の目安
氾濫危険水位一避難勧告等の発令判断の目安

※水位の高さは標高の高さで表示しています。

トピックス
危険を知る